

## エゾナキウサギ

エゾナキウサギは、ウサギや野ウサギの親戚にあたる小さなキタナキウサギの亜種です。ナキウサギは、ユーラシア大陸北部に見られる哺乳類で、全世界には 30 種類ほど存在しています。

エゾナキウサギは、人間の握りこぶしほどの大きさで、重さは 120 グラムくらいです。エゾナキウサギは、岩の多い山の斜面に住んでおり、花や苔やその他の植物を食べています。

エゾナキウサギは、夏に食物を集めて貯蔵します。冬には、集めた蓄えを食べて暮らし、岩の間に隠れていますが、冬眠はしません。

この地図は、エゾナキウサギの生息地を示したものです。これらの生息地は、高山植物が育つ岩場や、岩の多い山の斜面などです。生息地は、然別地域全体に散らばっています。

エゾナキウサギは北海道の固有種で、北海道中部の標高の高い山々にのみ生息しています。ただし、エゾナキウサギは、餌となる高山植物があれば、標高の低い輪のごつごつした斜面にも見られます。

エゾナキウサギは甲高い声で鳴くことから、その名がついています。

キタナキウサギは、最終氷期に北海道へやってきました。

約 2 万年前、地球は現代よりはるかに低い気温でした。この期間中、北海道の気温は、現在の気温より最大で 10℃も低かったのです。

地球上の水のうち、より多くの部分が氷であり、海面は今よりも最大で 120 メートルも低くなっていました。海面がより低かったため、浅い海底が現れており、現れた海底が、島々や大陸をつなぐ陸橋になっていました。

北海道は、サハリンを経由してユーラシア大陸につながっていました。この陸橋を通して、マンモスなどたくさんの動物が北海道に渡ってきました。

キタナキウサギもこのようにして北海道へやって来たと考えられていますが、移動の時期はもっと昔であった可能性もあります。北海道へやってきた頃は、森林地帯も乏しく、地形のほとんどがごつごつした岩場であったと考えられています。このことが、ナキウサギの移動を促したと考えられています。

エゾナキウサギは、北海道中央部の大雪山や日高山脈など、北海道の一部の地域でのみ見られます。

北海道北東部の知床や北海道東部の阿寒も、一見、山岳地帯の理想的な生息地があるものの、これらの地域では見られません。各地に分散する温泉など、このようなエリアをつなぐ地形の種類と火山活動の影響が、キタナキウサギの移動を阻んでいたと考えられています。

キタナキウサギは、数万年をかけて徐々に北海道へと渡ってきたようです。この過程は、1 万年ほど前に気温が急上昇するまで続きました。

この温度変化は、標高の低い場所にある森林の成長を促し、エゾナキウサギは山岳地帯の標高の高い所へと移動していきました。

キタナキウサギの生息地は、徐々に、岩場が残る数少ない高山に限られていきました。

然別の山々では、永久凍土と「風穴」が、エゾナキウサギなど、寒冷な気候の中で生きる動植物を支える環境を作り出しています。ここを訪れる人は、最終氷期の間に北海道がどのような姿だったのか、思い描くことができます。